

国産LLM「Sarashina」：知財業務の変革とデジタル主権の確立

次のフェーズ：知財AIエージェントへの進化

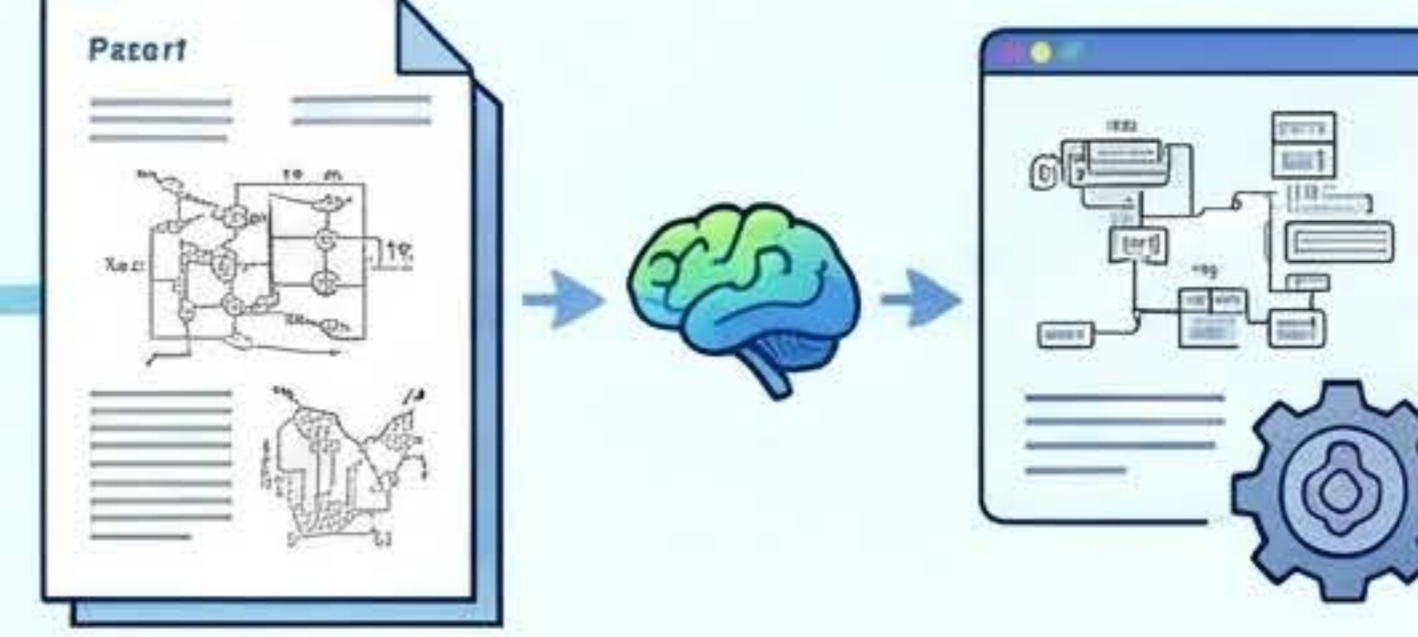


未公開情報の安全な処理（機密保持）
国内のセキュアな開埠環境（Cloud PF Type A）で製作し、入力データが両手習に利用されないため、発明展業書の読案などに安心して利用可能です。

知財業務への具体的活用シナリオ



RAGによる先行技術・クリアランス調査の効率化
検索クエリを探索するだけでなく、高度のセマンティックフィルター、キーワード数だけでなく、技術の「課題解決緊度」や「構造的機能類似性」に基づく高度な意味検索を実現します。



マルチモーダル解析による図面の理解
特許公報のPDF画像（図面やブロック図）とテキストを統合的に解釈し、技術構造の解説を補助します。



専門機能を持つ「マルチエージェント」の協調
中外製薬との特許調査をモデルとし、明細書読解、情報収集、先行技術調査などの各タスクを専門とするAIが自律的に連携するシステムの構築が期待されています。

Sarashinaモデル・エコシステムの技術的機能マトリクス

4,650億パラメータに達するMoEモデル

「Sarashina3-8x70B」は、Sparse Upcycling技術を用いて構築された巨大な適合エキスパートモデルであり、推論コストを抑えつつ世界トップレベルの表現力を実現します。

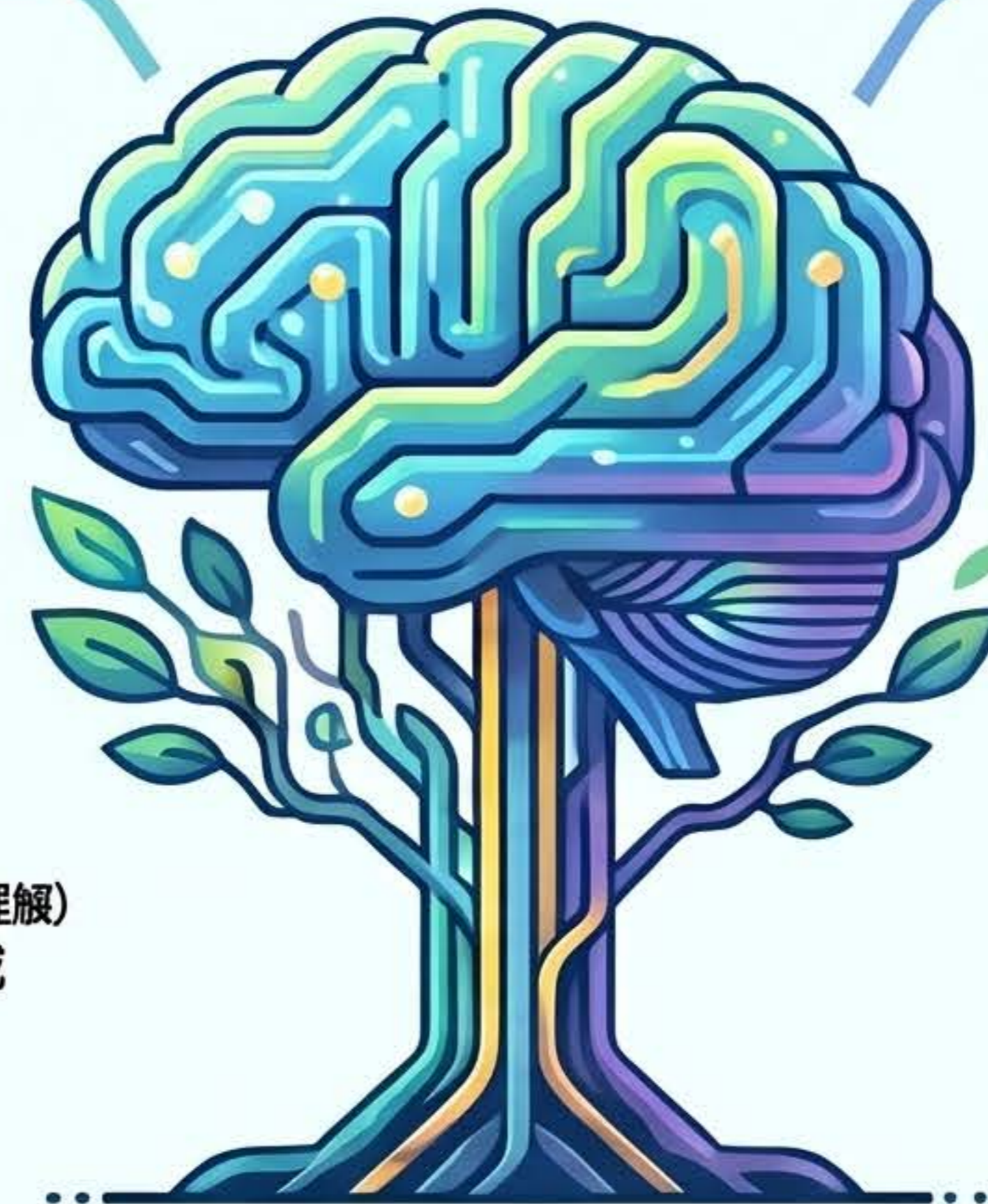
Sarashina2-70B (70B)
Llama2アーキテクチャ、102.4kボキャブラリー

Sarashina2-8x70B (465B)
Sparse upcycling手法、日英パイリンガルウェブコーパス

Sarashina2.2-Vision-3B (4B)
Image-to-Text（画像理解）
ゼロショット音声生成

Sarashina2.2-OCR (3B)
日英ドキュメント解析（複雑なレイアウト対応）

Sarashina-embedding-v2-1B (1B)
RAGおよびITS（異味的類似度検索）向けに最適化



国産LLM「Sarashina」の開発哲学と信頼性

フルスクラッチ開発による「説明可能性」の担保
海外モデルの追加学習ではなく、ゼロからモデルを構築することで、アルゴリズムの内訳構造を完全に把握し、産業用途で不可欠な学習の解析と信頼性を提供します。

デジタル主権を支える「4つの柱」

データ主権 (Data Sovereignty)
データの物理的な保管場所を国内に限定し、日本の法制に基づいて厳密に管理することで、外開送によるデータ差し押さえ等のリスクを低減します。

コア技術を自国で保有・開発し続けることで、真実的な自備性と競争力を維持します。

日本語に特化した高度な処理能力
SentencePieceトークナイザの模倣により、日本語特有の和綴り解析を必要とせず、生の文章を適格的かつ高効率に処理し、文脈理解を向上させています。